

パネルディスカッション 「明るい低炭素社会に向かって」

山田興一

日本でも低炭素社会構築に関連する技術・システム開発が進み、社会にも取り込まれてきている。

この低炭素化の流れにより、今後10－30年先の明るい展望のある社会に結びつくイノベーションが期待されている。

このパネルディスカッションでは研究開発、システム化、事業化、社会実装などを進めている各パネリストの発表及び会場の皆様から頂いた質問などを基に議論を進める。

各国のCO₂排出削減目標値 @COP21 赤字：基準年

国名	2030年までの削減目標値	基準年	CO ₂ 排出量(Mt-CO ₂)			
			1990年	2005年	2012年	2030年 (1990年比)
中国	CO ₂ /GDP 60－65% 削減	2005	2,339	5,377	9,067	今後、年経済成長4.5%で 7,720(3.3倍)
EU28	40%	1990	4,068	3,920	3,408	2,440 (40%減)
インド	CO ₂ /GDP 33－35%	2005	33.8	99.5	168	6%成長で 3,750 (6.4倍)
日本	26%	2013	1,070	1,219	(2013年) 1,239	917 (14%減)
ロシア	25－30%	1990	2,321	1,543	1,774	1,680 (27%減)
アメリカ	26－28% (2025年)	2005	4,820	5,782	5,139	4,220 (2025年12%減)

パネリストの話題

1	関根千津 住友化学株式会社理事 LCS戦略推進委員	省エネ、創エネを目指したデバイス関連素材 開発
2	本林稔彦 NECスマートエネルギービジネス ユニット新事業推進室 エグゼクティブエキスパート	再生可能エネルギー導入を支援する蓄電シ ステムとICTソリューション
3	藤田政之 東京工業大学教授	分散協調型エネルギー管理システム構築
4	洪儒生 台北駐日経済文化代表処 科学技術部 部長	台湾のエネルギー事情及び低炭素社会の 取り組み
5	松橋隆治 低炭素社会戦略センター 研究統括	経済成長とCO ₂ 削減両立のためのイノベー ション
6	石田謙悟 北九州市環境局 環境国際戦略担当理事	【発表なし(招待講演で済み)】 都市間連携を通じたアジア諸都市の低炭素 化

参加者からの主な質問

- COP21の建設的コンセンサス構築
- 日本の戦略を国際的イニシャティブにつなげる方策
- 経済発展と環境問題解決や低炭素社会等との両立
- 低炭素社会普及への国民意識レベル向上方法
- 低炭素社会実現と地方活性化
- PV,風力発電増加時の低炭素安定電源供給
- 再生可能エネルギー主の分散型電力システム普及
- スマートコミュニティーの普及
- FIT制度の改善
- 原子力発電の将来
- バイオマスエネルギー・炭素源の限界
- 有機太陽電池の可能性
- 水素社会の可能性、エネルギーキャリアーの見通し
- CO₂回収・貯留の実現可能性